



防災士会だより

東日本大震災の発生から今年で15年になります。そこで、平成23年の宮城県気仙沼市立^{はしがみ}階上中学校の卒業式で梶原裕太さんが読まれた答辞の一部を紹介します。災害の猛威や防災活動の重要性について改めて考えるきっかけにいただければと思います。

苦境にあっても天を恨まず運命に耐え助け合って生きていく

(前略) ちょうど10日前の3月12日。春を思わせる暖かな日でした。

私たちはそのキラキラ光る日差しの中を、希望に胸を膨らませ、通い慣れた学舎を、57名揃って巣立つはずでした。前日の11日。一足早く渡された思い出のたくさん詰まったアルバムを開き、十数時間後の卒業式に思いを馳せた友もいたことでしょう。「東日本大震災」と名付けられる天変地異が起こることも知らずに…

階上中学校といえば「防災教育」といわれ、内外から高く評価され、十分な訓練をしてきた私たちでした。しかし、自然の猛威の前には、人間の力はいくらにも無力で、私たちから大切なものを容赦なく奪っていきました。天が与えた試練というには、むごすぎるものでした。つらくて、悔しくてたまりません。時計の針は14時46分を指したままです。でも時は確実に流れていきます。

生かされた者として、顔を上げ常に思いやりの心を持ち、強く、正しく、たくましく生きていかなければなりません。命の重さを知るには、大きすぎる代償でした。しかし、苦境にあっても天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていくことが私たちの使命です。(中略)

私たちは今、それぞれの新しい人生の一步を踏み出します。どこにいても、何をしていようとこの地で共有した時を忘れず、宝物として生きていきます。後輩の皆さん、階上中学校で過ごす「あたりまえ」に思える日々や友達が、いかに貴重なものかを考え、いとおしんで過ごしてください。

(後略)

平成23年3月22日

気仙沼市立階上中学校第64回卒業生

梶原裕太さんの答辞より



消防団だより

第3分団を紹介します！

私たち第3分団は今年度の新入団員9名を含む総勢20名で活動しています。第3分団では、次の3つを大切に消防団活動を行っています。



▲第3分団分団長
池田 琉斗

①基本を大事に

基本知識・技術の定着が、いざという時の迅速な判断、正確な対応に繋がります。定期的に器具の使い方や動作マニュアルを復習するなど、基本を大切に訓練しています。

②風通しの良い雰囲気

経験の少ない団員が訓練する際は、必ず近くで先輩団員が見守るなど、質問や相談がしやすい環境を整えています。また、訓練後には、仕事や家庭、趣味の会話を楽しむなど、年齢や所属年数の枠を超えて交流を深めています。

③地域貢献の気持ちを忘れずに

地域の安全安心を守るために消防団の活動があります。自ら学ぼうとする気持ちを団員全員が持ち、積極的に訓練に取り組んでいます。



▲訓練の様子

団員が消防団活動に参加できるのは、ご家族や職場の方々の支えがあるからです。地域防災力の向上のために日々精進して参りますので、今後ともご理解、ご協力をお願いします。